

総務省承認 No.	2 5 7 9 2
承認期限	平成17年3月31日まで

【基本指標コード】（職員記入欄）

取りまとめ センター等 番号	センター 番号	市町村番号	標本番号
：	：	：	：

① 農林水産省

持続的生産環境に関する実態調査

たい肥等特殊肥料の生産・出荷状況調査票
(平成16年11月 1 日現在)

この調査は動物の排せつ物を有効に活用し、環境と調和のとれた資源循環型農業を目指す農政の企画・立案、推進等に必要な資料とすることを目的として、実施しています。

この調査結果は、統計以外の目的には使用しませんので、ありのままをご記入願います。

本調査は、下記1及び2の両方に該当される生産業者を対象としています。
1及び2のいずれか一つのみに該当される場合は、本調査へのご回答は不要です。

1. 肥料取締法に基づき、都道府県知事に特殊肥料の生産業者の届出を行っている。
2. 肥料取締法に基づき、特殊肥料のうち「たい肥（うち、動物の排せつ物を原料に含み、これをたい積又は攪拌し、腐熟させたもの）」、「動物の排せつ物（乾燥ふんなど）」又は「動物の排せつ物の焼却灰」を生産している。

記入者氏名	電話番号 (内線)	() 局 番 ()
-------	--------------	----------------

1 経営の形態について、経営主体（運営主体）に該当する番号を一つ選び○で囲んでください。

経営主体 (運営主体)	農 家	営農集団	会 社	畜産業を 営む会社	J A等 農業 団体	第3 セクター	都道府県 ・ 市町村	その他 () 具体的に記入 下さい
番 号	1	2	3	4	5	6	7	8

- 注：1. 本調査では1戸1法人は農家に含めます。
2. 営農集団とは、比較的小規模の畜産農家が数戸（又は畜産農家1戸と耕種農家が2戸以上）集まって、施設・機械等を共同運営しているものをいい、本調査では、農事組合法人については、営農集団に含めます。
3. 会社とは、株式会社、有限会社又は合名・合資会社の組織形態をとっているものをいいます。

2 特殊肥料生産施設について、保有するものの全ての番号を○で囲んでください。

施設名	たい肥舎	自動かく 拌機	密閉式発 酵機	炭化処理 装置	焼却処理 装置	貯留槽・ 液肥化施 設	その他 () 具体的に記入下さい
番 号	1	2	3	4	5	6	7

3 たい肥等特殊肥料の年間生産能力
を教えてください。

年間生産能力	重 量
たい肥等特殊肥料 の年間生産能力	t

調査票は ____月____日の____時ころに統計・情報センターの職員が回収に伺います。
お伺いする際には事前に電話でご連絡いたしますが、上記の日時がご都合に合わない場合や、調査票の記入に関してご不明な点がございましたら下記の統計・情報センターへご連絡願います。

問い合わせ先

都道府県知事に届け出ている各事業場の生産・出荷状況をお答えください。

問 1 「たい肥等特殊肥料」の平成15年11月1日から16年10月31日までの1年間（この期間により難しい場合は直近の1年間）の生産状況について、肥料の種類、原料に含む家畜排せつ物の種類、家畜排せつ物の搬入量、副資材の種類別割合、生産状況、年間生産量、成分量及び販売価格をお答えください。

たい肥等 特殊肥料 の 製 品	肥料の 種 類 一つ選び○ で囲んでく ださい。	原料に含む家 畜排せつ物の 種類 一つ選び○で 囲んでくださ い。	家畜排せつ物 の 搬 入 量 (生ふん尿重量) t	原 料							
				副資材の種類別割合（重量換算）							
				うち、 自家発 生割合	わ ら 類	も み が ら	チップ、 おがくず	バ ー ク	戻し たい肥	その他 () 具体的に ご記入 下さい	使用 しない
			%	%	%	%	%	%	%	%	
1	1 2 3	1 2 3 4 5 6 7									
2	1 2 3	1 2 3 4 5 6 7									
3	1 2 3	1 2 3 4 5 6 7									
4	1 2 3	1 2 3 4 5 6 7									
5	1 2 3	1 2 3 4 5 6 7									
合 計											

肥料取締法に基づくたい肥等特殊肥料の種類

- たい肥（うち、動物の排せつ物を原料に含み、これをたい積又は攪拌し、腐熟させたもの）
- 動物の排泄物（乾燥ふんなど）
- 動物の排泄物の焼却灰

原料に含む家畜排せつ物の種類

- 牛ふん尿（乳用牛）
- 牛ふん尿（肉用牛）
- 豚ふん尿
- 鶏ふん尿
- 馬ふん尿
- その他ふん尿（乳用牛、肉用牛、豚、鶏、馬以外）
- 混合（乳用牛、肉用牛、豚、鶏、馬又はその他）ふん尿

家畜排せつ物の搬入量のうち、自家発生割合

◎ 家畜排せつ物の搬入量を100とした場合に、自家の経営体で飼養する家畜から発生した家畜排せつ物の重量の割合をご記入ください。

副資材の種類別割合（重量換算）

◎ 家畜排せつ物の搬入量を100とした場合に、添加した副資材の重量の割合をお答えください。
（例：家畜排せつ物が10トンに対して、おがくずを副資材として5トン添加した場合は、「おがくず」に50（%）とご記入ください。）

◎ 副資材を使用しない場合は、「使用しない」に100（%）とご記入ください。

◎ 微生物資材は副資材に含めません。

問 2 問 1 でお答えいただいた平成15年11月1日から16年10月31日までの1年間（この期間により難しい場合は直近の1年間）に製造された「たい肥等特殊肥料」の全製品合計の出荷状況をお答えください。

ア 出荷状況別に出荷量をご記入ください。

出荷状況		出荷量 t
販 売	個人販売	
	J A 等農業団体	
	肥料会社	
	小売業者	
	その他() 具体的に記入 ください	
交換・無償譲渡		
自家の経営耕地へ還元		
販売以外その他() 具体的に記入 ください		
合 計		

注：1. 「個人販売」とは、耕種農家との契約販売、その他の個人販売をいいます。
2. 「交換・無償譲渡」とは、家畜排せつ物のたい肥化等処理を行い、稲わら等の敷き料等と交換、耕種農家等は無償で譲渡したものをいいます。
3. 調査期間内に販売等の実績がなかった分及び在庫分は「販売以外その他」欄にご記入ください。

注：問 1 の「年間生産量」合計と問 2 の「出荷量」合計は一致します。

注：1. 調査における「たい肥等特殊肥料」とは、たい肥（うち、動物の排せつ物を原料に含み、これをたい積又はかく拌し、腐熟させたもの）、動物の排せつ物（乾燥ふんなど）又は動物の排せつ物の焼却灰をいいます。
2. 「たい肥等特殊肥料」の製品名ごとにご記入ください。なお、合計欄には全製品の「家畜排せつ物の搬入量」及び「たい肥等特殊肥料の年間生産量」の各合計をご記入ください。

たい肥等特殊肥料の生産状況			たい肥等 特殊肥料の 年間生産量	成分量					販売形態別 販売価格		
生産方法	製造期間	切り返し 回 数		表 示 方 法 一つ選び○ で囲んでく ださい。	水分含有 量 %	窒素 全量 %	りん酸 全量 %	加里 全量 %	炭素 窒素比	袋詰め	バラ
主な生産方法を一つ選び○ で囲んでください。	日	生産方法で1 を選択した場合のみお答え ください。								販売価格	販売価格
			t						円/10kg	円/ t	
1 2 3 4 5 6 7				1 2							
1 2 3 4 5 6 7				1 2							
1 2 3 4 5 6 7				1 2							
1 2 3 4 5 6 7				1 2							
1 2 3 4 5 6 7				1 2							

たい肥等特殊肥料の主な生産方法

1. たい肥舎方式（たい積・切り返し）
 2. 自動かく拌機（スクレーパー式・ロータリー式）
 3. 密閉型発酵槽
 4. 火力（天日）乾燥
 5. 焼却処理
 6. 液肥化
 7. その他
- ◎ 製造期間は、事業場へ家畜排せつ物を搬入した日から製品化（袋詰め等製品として販売可能となった時点）までの期間とし、日数をご記入ください。
- ◎ 生産方法「たい肥舎方式（たい積・切り返し）」の場合のみ、切り返し回数をご記入ください。

成分量の表示方法

1. 現物等表示
 2. 乾物表示
- ◎ 両方の表示がある場合は現物表示で回答ください。
- ◎ 乾物表示「2」の場合のみ、水分含有量をご記入ください。

販売形態別販売価格

- ◎ 販売価格は、袋詰めは10kgに、バラは1トン当りに換算してご記入ください。
- ◎ 販売価格に運賃等が含まれている場合は、その分を差し引いてください。
- ◎ 自家の経営耕地へ還元、交換・無償譲渡の場合は、販売価格は「0円」とご記入ください。

イ アで販売実績のあった方は、販売量を地域別にご記入ください。都道府県外へ販売がある場合は、販売量の多い順に上位4県及びその他都道府県外合計別にご記入ください。

販売先（地域別）		販売量	販売形態別出荷割合	
			袋詰め	バラ
合 計		t	%	%
都道府県内	市町村内			100%
	市町村外			100%
都道府県外	県名			100%
	県名			100%
	県名			100%
	県名			100%
	そ の 他 都道府県外合計			100%

注：問2のア「販売」欄の合計と、イの販売量「合計」は一致します。

- 注：1. 都道府県内のうち市町村内とは、生産業者の事業場が所在する市町村内とし、市町村外とは同県内においてそれ以外の市町村とします。
2. 都道府県外に販売している場合は、その県名もご記入ください。
3. 袋詰め又はバラ（車両積み、バッグ詰め）のうち、該当する販売形態を選択して、出荷割合をご記入ください。
4. 販売先の地域別に袋詰めとバラの割合が100%となるようご記入ください。

問3 生産・販売の取組と課題についてお答えください（平成16年11月1日現在）。

ア 販売促進のために取り組んでいることについて、該当するすべての番号を○で囲んでください。

取組事項	番号
完熟たい肥の製造に努めている	1
微生物資材などの添加剤を利用している	2
成分分析の回数を増やすなど品質安定に努めている	3
塩類濃度の低減など品質向上に努めている	4
たい肥利用者の要望やニーズの把握に努めている	5
運搬又は散布作業のサービス（有料含む）を行っている	6
袋詰め等の販売形態を工夫している	7
利用方法の解説や促販用パンフレットの作成	8
ホームセンター等の販路拡大に努めている	9
インターネットを活用した販売に取り組んでいる	10
価格を安く設定している	11
その他（ ） 具体的にご記入ください	12

イ 生産・販売上における問題点について、該当するすべての番号を○で囲んでください。

問題点	番号
原料の安定的な確保が困難	1
臭気問題により原料運搬や生産が困難	2
製品の成分が安定しない	3
塩類濃度が高く品質が安定しない	4
価格が安いために採算が取れない	5
販売が伸びず採算が取れない	6
設備更新に必要な資金が得られない	7
施設の維持費用が高い	8
副資材費が高い	9
人件費が高い	10
運搬費等が高い	11
その他（ ） 具体的にご記入ください	12

問4 今後のたい肥等特殊肥料の生産意向について、該当する番号を一つ選び○で囲んでください（平成16年11月1日現在）。

経営意向	生産量を増やす	生産量を維持する	生産量を減らす
番号	1	2	3

畜産農家、畜産業を営む会社、営農集団、その他畜産業を営んでいる生産業者の皆様にお聞きします。

飼養する家畜から発生した家畜排せつ物の仕向け先別割合について、合計が100%となるようお答えください（平成15年11月1日から16年10月31日までの1年間（この期間により難しい場合は直近の1年間）でお答えください）。

家畜排せつ物の仕向け先	自家の経営耕地へ還元	販売	交換・無償譲渡	エネルギー化施設	浄化・焼却処理等	その他（ ） 具体的にご記入下さい	合計
割合（%）							100%

- 注：1. 営農集団等（JA等農業団体を除く）で経営体の構成者が複数の場合は、構成者の合計でお答えください。
2. 「自家の経営耕地へ還元」とは、自家において家畜排せつ物のたい肥化等処理を行い、自家の経営耕地内に還元するものをいいます。
3. 「販売」とは、家畜排せつ物のたい肥化等処理を行い、販売に仕向けたものをいいます。
4. 「交換・無償譲渡」とは、家畜排せつ物のたい肥化等処理を行い、稲わら等の敷き料等と交換、耕種農家等に無償で譲渡したものをいいます。
5. 「エネルギー化施設」とは、発電等を目的としたメタン発酵や直接燃焼施設等のエネルギー化施設をいいます。

経営耕地を所有又は家畜を飼養されている生産業者は、耕地種類別、畜種別にお答えください（平成16年11月1日現在）。

耕地種類別	経営耕地面積 a
田	
畑	
野菜だけを作った畑	
牧草地	
樹園地	

畜種	飼養頭羽数 頭、千羽
乳用牛	
肉用牛	
豚	
鶏（千羽）	
馬	
その他	

- 注：1. 営農集団等で経営体の構成者が複数の場合は、構成者の合計でご記入ください。
2. 豚は子取り用めす豚及び肥育豚の合計の頭数をご記入ください。
3. 鶏は採卵鶏、ブロイラーを含め、年間（平成15年11月1日から16年10月31日までの1年間）平均飼養（出荷）羽数をご記入ください。

具体的にご記入ください。
()

調査はここで終わりです。ご協力ありがとうございました。